

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス からし種		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49人	(回答者数) 14人
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	敷地内に「エマオ診療所」があり、医師や心理士、ケースワーカー等の専門職による助言をもらったり、必要時には医療とつながることが出来る。また、療育スタッフの中に作業療法士も居る為、感覚統合に基づく①遊びの提供や、②音や視覚や味覚など特定の刺激に敏感な子、気づきにくい子に配慮した環境調整を行っています。	集団療育の中でも、個別的な関わりが必要なお子様がいらっしゃるときには、プレイルームやKKハウス、アパートの部屋なども利用しながら、分かれて活動することがある。	さらに専門職との連携を密にしていきたい。
2	土曜日や長期休みのお出かけやイベントなどを行っている。また、近場の温泉に行ったりしながら、生活面での支援も行っている。また、日々の療育の中でも、お誕生日ケーキを作ってお誕生会をしたり、卒業や進級時に皆でお祝いするなど、家庭的な雰囲気を感じてもらっている。	施設内の活動だけではなく、町の体育館やグラウンド、川や海、公園などにも出かけている。又、季節感を味わったり、感覚統合の視点を取り入れている。温泉などの公共施設を利用して、社会性等を学べるように支援している。送迎など、家庭の事情や予定変更などにも、柔軟に対応している。	送迎場所や時間などの急な変更などご家庭のニーズをよく把握したうえでプログラムに繋げていく。
3	集団療育の中で、異年齢の子ども達同士で助け合いながら、成長していけるようなプログラムを立案している。その中で、子ども達へのスタッフの関わりを見て、年上の子が年下の子に関われるようになり、役割の学習と自己肯定感の向上につながっている。	クッキング等の集団活動や毎回の勉強などの繰り返しで様々な行動の習慣づけを行っています。習慣の繰り返しで自身の強みを理解し自己肯定感の向上や役割作りをしています。その中で年上の子供が年下の子供をサポートしながら成長している姿が見られている。	子ども達の組み合わせや構造化、合理的配慮の質を日々向上させていきたい。(スタッフ自身の日々のレベルアップを目指します。)

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校との連携が、出来ている学校とそうでない学校がある。	お互いに個々の顔が見えていない施設や学校もある。	必要なお子様に対して、こちらから積極的に情報交換を行い、支援会議を行えるような関係を作っていく。
2			
3			